

2026/01/27 第9回小委員会 @大林組本社14階会議室 および オンライン

土木業界における ウェルビーイング調査研究小委員会

土木学会 建設マネジメント委員会 第2種研究小委員会

本日のアジェンダ

- 小委員会活動のおさらい
 - ・ 目的と活動の流れ
 - ・ インタビュー調査
 - ・ アンケート調査
 - ・ 発表、投稿等
- 12月9日 建マネ研究発表会・討論会の内容について
- 今後の分析・活動の方向性について（要議論）
- 小委員会の延長について（要議論）

小委員会活動のおさらい

小委員会メンバー

※五十音順

委員会内役職	氏名	所属・役職
小委員長	佐々木 嘉仁	(株)大林組 代表取締役 副社長執行役員 土木本部長
委員	Michael HENRY	芝浦工業大学 土木工学科 教授
	井口 雄太	(株)大林組 技術本部 技術研究所 都市環境技術部 係長
	柿崎 起	(株)新庄碎石工業所 取締役管理部長
	木村 恭子	日本工営(株) 基盤技術事業本部 地球環境事業部 サステナビリティデザイン室 課長補佐
	国枝 将大	Meaningful Design House / Strategic Designer
	柴田 芳雄	国土交通省 大臣官房技術調査課 建設技術調整室長
	清水 尚憲	ジー・オー・ピー(株) 安全・安心技術研究センター センター長
	条谷 貴志	(株)兵庫土木サポート 代表取締役
	中島 裕樹	大成建設(株) 土木本部 土木企画部 企画室 主任
	中山 かおり	清水建設(株) 土木営業本部 営業部 部長
	浜田 紗織	(株)ワーク・ライフバランス 取締役
	福田 悠太	日本工営(株) 基盤技術事業本部 地球環境事業部 環境部 課長
	北條 理恵子	長岡科学技術大学 システム安全工学専攻 准教授
	松永 昭吾	(株)インフラ・ラボ 代表取締役
委員（兼事務局）	茂木 哲一	(株)長大 環境事業部 社会環境2部 部長代理
	横内 陳正	神戸大学国際人間科学部 講師
	幸良 淳志	(株)大林組 土木本部 営業企画第一部 課長
	西口 幹人	(株)大林組 土木本部 営業企画第一部 係長
オブザーバー	森 麻里子	(株)大林組 土木本部 営業企画第四部 係長
	山本 哲	(株)大林組 土木本部 営業企画第一部 主任
オブザーバー	堀田 昌英	東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 教授

小委員会立上げの背景と目的

■ 小委員会立上げの背景

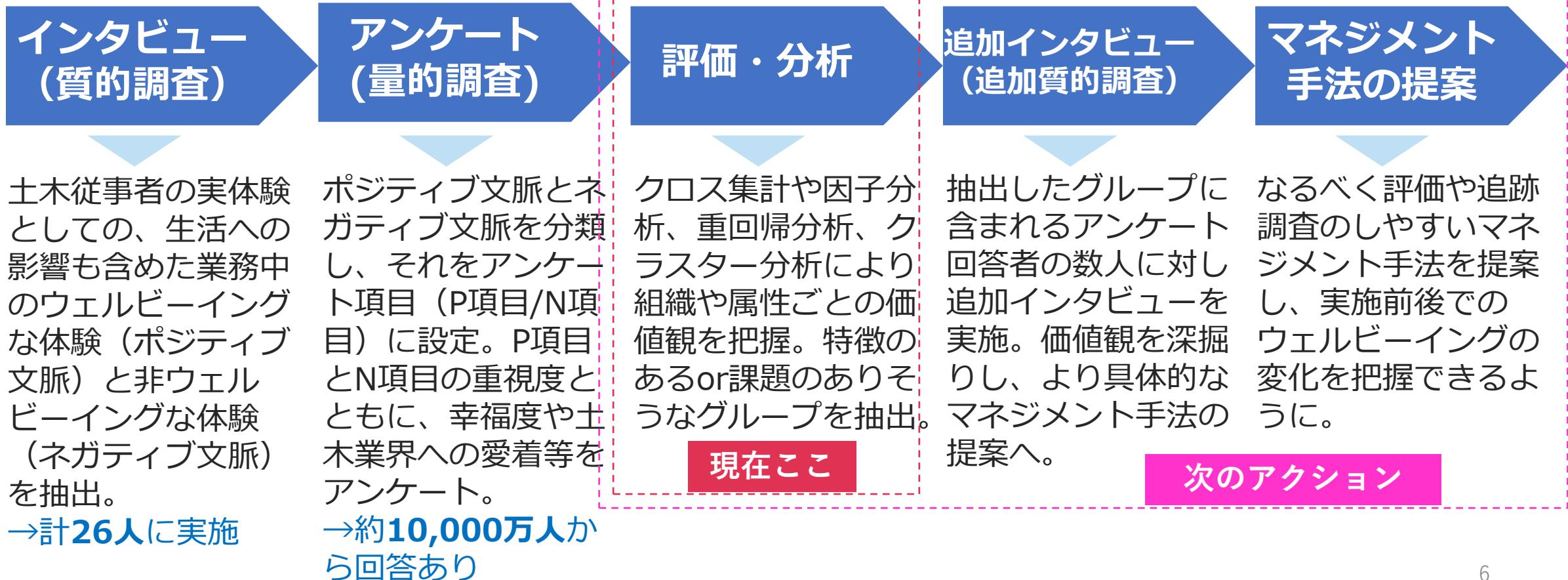
- コロナを契機として「働き方改革」が急速に進み「働きやすさ」は着実に向上してきた
- 一方で、働きたくても働けない・能力向上の機会の減少等により特に若い世代を中心に「働きがい」が低下してきているという報告がある
→生産性の低下や離職率の増加につながり、組織の体力低下を引き起こす
- 近年、組織が従業員のウェルビーイング向上に取り組むことで、従業員の組織に対するエンゲージメントや仕事に感じる働きがいが向上することが報告されている
→組織の生産性の向上や離職率の低下のみならず、企業価値の向上とそれに伴う有能な人材の確保へつながっていく

■ 小委員会立上げの目的

担い手の確保という業界の喫緊の課題に対して、**ウェルビーイングの視点**が今後ますます重要になってくると考えられ、本小委員会において**ウェルビーイングを指標とした土木業界のマネジメントについて調査・研究**を行う

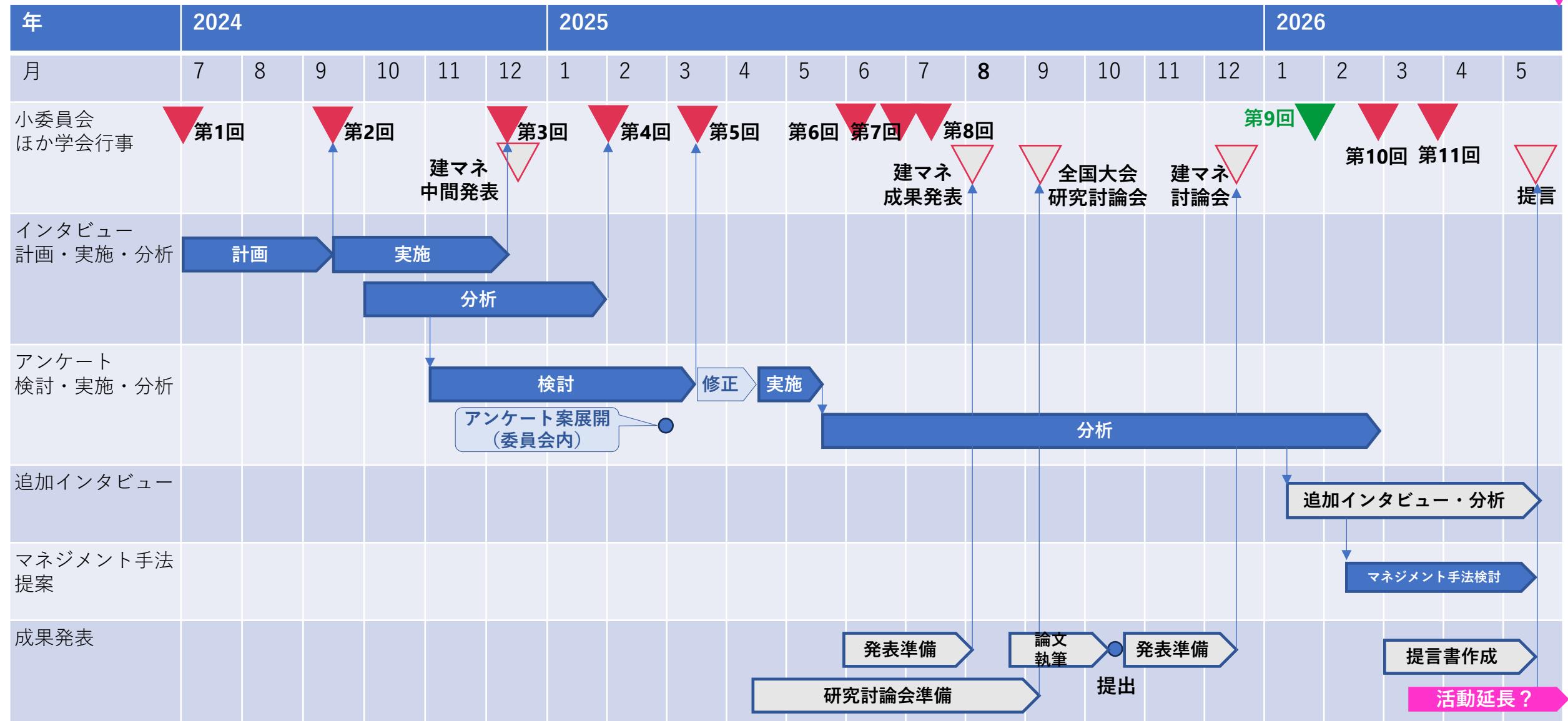
活動の流れ

土木従事者へインタビュー・アンケート調査を実施し、
土木業界のウェルビーイングの実態を把握・分析したうえで、
組織や属性ごとのウェルビーイングの度合いに基づいた**マネジメント手法を提案**する



活動スケジュール

いったん
の終了



インタビュー調査

- 目的：次ステップのアンケート調査における質問項目の検討材料とする
- 内容：土木従事者 計26人に対面でインタビュー
対話中のWBに関する体験とインタビュイーの価値観を調査

インタビュー結果の分析フロー

事前記入内容をもとにインタビュー・内容の文字起こし

ウェルビーイングや価値観に関連する発言を文単位で抽出

抽出は文脈を理解しているインタビュアーまたは同席者が実施
一般化せず、具体的な体験や表現のまま抽出

抽出した文を一覧に並べ、ポジ・ネガ・ニュートラルに分類

約1570文を抽出（ポジ820、ネガ460、ニュートラル290）

抽出した文をKJ法により分類

ポジ820キーワードを70小分類、28中分類に分類（1文を複数に分類可）

分類した項目（中分類）をもとにアンケート質問項目を検討

アンケート調査

●アンケート結果のサマリー

土木従事者に向けてウェブアンケート調査を実施（2025/4～5）

全体数 10,716名

(うち有効回答数10,058名)

年齢層 50代：31.3%(最多) 20代：17.6%

男女比 男性：88.8% 女性：9.7% 答えない：1.5%

●4つの価値観に分類⇒階層的クラスター分析を実施 (2025/12/9 建マネ講演論文)

アンケート回答者内訳

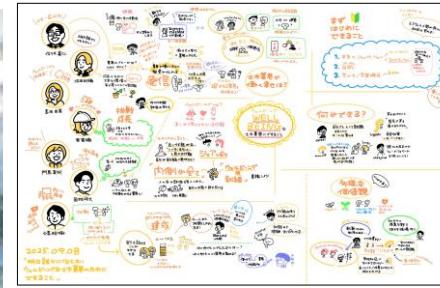
業種	回答数(名)	割合(%)
官庁・独立行政法人	683	6.5
地方公共団体	2983	27.8
学校・学会	44	0.4
協会	8	0.1
建設会社（ゼネコン）	3804	35.5
建設会社（専門工事業）	887	8.3
建設コンサルタント	826	7.7
電力・ガス	47	0.4
鉄道会社	716	6.7
メーカー（建設資材など）	30	0.3
高速道路関係会社	604	5.6
その他_調査・点検	18	0.2
その他_NPO法人・財団など	8	0.1
その他	58	0.5
合計	10716	100.0

クラスター名称	社会貢献	自己成長	対人関係	労働条件
高期待度群	高い	高い	高い	高い
自己犠牲群	平均/高	平均/高	平均/高	低い
生活重視群	低い	低い	低い	高い
生活重視群	低い	低い	低い	低い

発表・投稿等

● 土木学会研究討論会 2025/9

『明日誰かに伝えたい「ウェルビーイングな土木業界のためにできること』』について議論
外部からは、島田由香氏(株)YeeY)、東香織氏 (株)KSK) 、門馬真帆氏(株)アイ・エス・エス)が登壇



研究討論会のグラレコ
作 (イラストレーター/漫画家)



研究討論会の様子

● 発表・投稿

・建設マネジメント委員会での発表

2024/12、2025/8、2025/12 (論文(査読無し)あり)

・土木学会誌への寄稿：2026年1月号

他

12月9日 建マネ研究発表会・討論会

資料別添

今後の分析・活動の方向性について

2本柱での展開

1. 業界の全般的なWB調査

定量調査
現状の分析の深化

2. 個別のWB調査

定性調査
追加インタビュー

定量調査の結果から課題を有すると考えられるグループと、各社で課題感を持っているグループは果たして一致するか？？

1. 業界の全般的なWB調査（定量調査）

- 建マネ講演論文は、クラスター分析による価値観の類型化までを行った
→属性ごとのマジョリティ／マイノリティの価値観の可視化
- 次に、それぞれのクラスターのWBを定量的に評価する必要がある
→価値観のパターンと幸福度・満足度の関連を分析する
→建設業界における現状の働き方や職場環境は、マジョリティーな価値観をもつ人々にとっては有利かもしれないが、マイノリティーな価値観をもつ人々にとっては不利に機能していないか？
- 特にどのような人々のWB向上が喫緊の課題であるかを報告 →大きな成果
→着目する層について定性調査を実施
- WB →多様性 →他の切り口の分析は必要ないか？？？
例えば、職種ごとにクラスター分析などをすると、その職種だけに現れるような価値観群も出てくる可能性があるか？

2. 個別のWB調査（定性調査）

資料別添（国枝さん）

- 必ずしも定量調査の分析結果をもとに定性調査を行う層を決める必要もない？

例えば、松永委員の関心は

- ・30代国家公務員（キャリア・土木） 女性←最近増えていると言われつつ….
- ・20代地方公務員土木職 男性←大多数の自治体で不足
- ・30代道路会社勤務 女性技術者
- ・20代大学助教 男性（任期付き5年）←学会として危機感
- ・20代建設資材メーカー技術職 女性 ←工場技術者
- ・30代海外勤務・開発コンサル 女性←海外勤務者

- 外部専門家への依頼、活用について
- 定性調査はどのような形の成果となるか？するか？

お願い

① WG体制を取りたい

★定量調査WG（仮称）

★定性調査WG（仮称）

どちらのWBが良いか後日アンケートを取らせてください

- ・WGリーダーやります
- ・立候補がいなければリーダーやります
- ・副リーダーならやります
- ・いちメンバーが良い 等々

② 学生さんに委員会に参加してもらって、卒論や修論に活用してもらいたい（もちろん色々な作業も・・・）

小委員会の延長について

小委員会の延長について

- ・ 5月末までに分析や追加インタビューを進め、提言書をまとめるのは厳しい
- ・ 建マネ親会からは、もっと活動を発展させてほしいという声もあり

そのほか

- ・ 技能者のウェルビーイングへのアプローチ
- ・ 土木業界を選ばなかった人・辞めた人からの視点
- ・ 他業界との比較

への対応も考えて、小委員会の延長を行う予定です。

年度明けぐらいに委員としての参画可否についてアンケートを取ります。
もちろん委員を継続するかどうかは任意です。

今後の主な予定

- 3月4日の建マネ親会で働き方（改革）の議論が行われる
← そのタネとなるような情報を発信する必要あり
- 6月の建マネの働き方改革シンポジウムで発表する

次回小委員会の候補

- 2月24日（火）午後
- 3月2日（月）14:30～ ←第一希望
- 3月5日（木）午前